**４月１２日　礼拝メッセージ　「わたしはよみがえりです。いのちです。」ヨハネ１１：２５**

**「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。**

**また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。あなたはこれを信じるか」。**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　ヨハネ11：25-26(口語訳)

イエスさまの最後の一週の表を参照…金曜日に十字架につけられ、その日の夕方、お墓に葬られた。

ユダヤ教の安息日が、金曜日の夕方から土曜日の夕方までで､その間､何の業もしてはならなかった。

　☆イエスさまが復活された日が日曜日であったので、キリスト者の礼拝も日曜日となる。

１パリサイ人・律法学者たち…イエスの復活の予告を覚えていたのは弟子たちでなく、彼らであり、

　イエスの遺体を盗み出されることを恐れ、安息日であるにもかかわらず、わざわざピラトと

面談し、ローマ兵に３日間、墓の番を依頼する。彼らは墓の石に封印し、墓を開ける行為を犯罪とし、誰もイエスの遺体を盗み出すことができないようにした。(マタイ27：62-66)

「さて次の日、すなわち備えの日の翌日、祭司長、パリサイ人たちはピラトのところに集まって、こう言った。「閣下。あの、人をだます男がまだ生きていたとき、『自分は三日の後によみがえる。』と言っていたのを思い出しました。ですから、三日目まで墓の番をするように命じて

ください。そうでないと、弟子たちが来て、彼を盗み出して、『死人の中からよみがえった。』と民衆に言うかもしれません。そうなると、この惑わしのほうが、前のばあいより、もっとひどいことになります。」ピラトは「番兵を出してやるから、行ってできるだけの番をさせるがよい。」と彼らに言った。そこで、彼らは行って、石に封印をし、番兵が墓の番をした。

２イエスを信じる女性たちの行動…安息日が終わった日曜日の早朝、まだ暗い時間に、マグダラのマリヤ、ヨハンナ、ヤコブとヨセフの母マリヤ、サロメたちが、イエスの遺体に香料を塗ろうと墓を訪れた。彼女たちは、墓の入り口の石をどうやって転がすかを心配していたが、そこに着いた時には、もうすでに石は転がされていた。(マタイ28：2-4)

　　「すると大きな地震が起った。それは主の使が天から下って、そこにきて石をわきへころがしその上にすわったからである。その姿はいなずまのように輝き、その衣は雪のように真白で

あった。」見張りをしていた人たちは、恐ろしさの余り震えあがって、死人のようになった。」

彼女たちを迎えたのは御使いであった。(マタイ28：5-7)

　　「**恐れてはいけません。**あなたがたが十字架につけられたイエスを捜しているのを、私は

知っています。ここにはおられません。前から言っておられたように、よみがえられたからです。来て、納めてあった場所を見てごらんなさい。ですから急いで行って、お弟子たちにこのことを知らせなさい。イエスが死人の中からよみがえられたこと、そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれ、あなたがたは、そこで、お会いできるということです。」

３墓の中を確認したペテロとヨハネ(ヨハネ20：3-10)

　「そこでペテロともうひとりの弟子は外に出て来て、墓のほうへ行った。ふたりはいっしょに

走ったが、もうひとりの弟子がペテロよりも速かったので、先に墓に着いた。そして、からだをかがめてのぞき込み、亜麻布が置いてあるのを見たが、中にはいらなかった。シモンペテロも彼に続いて来て、墓にはいり、亜麻布が置いてあって、イエスの頭に巻かれていた布切れは、亜麻布といっしょにはなく、離れた所に巻かれたままになっているのを見た。そのとき、先に墓に着いたもうひとりの弟子もはいって来た。そして、見て、信じた。彼らは、イエスが死人の中からよみがえらなければならないという聖書を、まだ理解していなかったのである。

それで、弟子たちはまた自分のところに帰って行った。」

　二人が目撃したのは、遺体をくるんでいた亜麻布だけが置いてある光景だった。それは、まるで

　中の遺体が蒸発してしまったように、布だけがそのままの形で残っており、特に頭に巻いていた

　布が丸い形状を保ったまま残されていた。

４マグダラのマリヤに現われたイエスさま(ヨハネ20：11-18)

　「しかし、マリヤは外で墓のところにたたずんで泣いていた。そして、泣きながら、からだを

かがめて墓の中をのぞき込んだ。すると、ふたりの御使いが、イエスのからだが置かれていた場所に、ひとりは頭のところに、ひとりは足のところに、白い衣をまとってすわっているのが見えた。彼らは彼女に言った。「なぜ泣いているのですか。」彼女は言った。「だれかが私の主を取って行きました。どこに置いたのか、私にはわからないのです。」彼女はこう言ってから、うしろを振り向いた。すると、イエスが立っておられるのを見た。しかし、彼女にはイエス

であることがわからなかった。イエスは彼女に言われた。「なぜ泣いているのですか。だれを捜しているのですか。」彼女は、それを園の管理人だと思って言った。「あなたが、あの方を運んだのでしたら、どこに置いたのか言ってください。そうすれば私が引き取ります。」イエスは彼女に言われた。「マリヤ。」彼女は振り向いて、ヘブル語で、「ラボニ（すなわち、先生）。」とイエスに言った。イエスは彼女に言われた。「わたしにすがりついていてはいけません。

わたしはまだ父のもとに上っていないからです。わたしの兄弟たちのところに行って、彼らに『わたしは、わたしの父またあなたがたの父、わたしの神またあなたがたの神のもとに上る。』と告げなさい。」マグダラのマリヤは、行って、「私は主にお目にかかりました。」と言い、

また、主が彼女にこれらのことを話されたと弟子たちに告げた。」

弟子たちが去った後も墓に残っていたマリヤは、復活の主イエスに出会った最初の証人となった。

　主の死、遺体が無くなるという悲しみと動揺の中で、復活されたイエスは、園の管理人と誤解していたマリヤに、生前、呼びかけていたように「マリヤよ」と名を呼ばれた。その時初めてマリヤは、自分の名を呼ぶイエスさまに気がつき、走り寄る。(ヨハネ10：3-4)

　　「**羊はその声を聞き分け**ます。彼は自分の羊をその名で呼んで連れ出します。彼は、自分の羊をみな引き出すと、その先頭に立って行きます。すると羊は、彼の声を知っているので、

**彼について行きます**。」

☆よみがえられたイエスさまは、今も私たち一人一人の名を呼んでおられます。(イザヤ43：1)

**「恐れるな、わたしはあなたをあがなった。わたしはあなたの名を呼んだ、**

**あなたはわたしのものだ。」**(口語訳)

☆復活の朝、イエスさまは、私たちにも、こう言われます。

「　**わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。**

**また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。あなたはこれを信じるか**。　」

★世界中に、コロナウィルスが蔓延し、多くの人々が感染し、亡くなっています。不安とストレスで、混乱し、先が見えない状況ですが、「恐れるな」と言われる、主の声に耳を傾け、

復活の主の生命に生かされてまいりましょう。一日も早く感染が終息することを祈りつつ…。